

野田 九条通信

鴨 桃代 講演会で

働いているのになぜ貧困!! 政治のゆがみに怒り

今年の九条の会の講演会は、働く現場から平和を考えようということで、一人でも入れる労働組合全国ユニオン会長の鴨桃代さんからお話を聞きました。約70名というこれまでより少なめの参加者でしたが、今の雇用情勢の中で、パートや派遣にかかわらず、正規雇用の

労働者も長時間やきつい労働に耐えていること、そしてもの言えない、非正規だからということ、身分差別まで受けている実態に、一同胸が締め付けられる思いがしました。なぜこんなことになってしまったのか。1995年に日経連の「新時代

の日本的経営」で、正社員は幹部社員のみということが言われ、その後、派遣法改訂、2001年小泉政権後、労働法が次々改悪されてきたことなど、政治が今の状況を作ってきたことがわかりました。また、堤未果著「貧困大国アメリカ」に書かれて

いるように、食べるために、より良い働き口につくため、戦争に行かざるを得ないような状況に、日本も向かっているのではないか、それに対し私

たちは、どんな働き方であつても生きていくことができる賃金を求める、春闘では「どこでも誰でも時給1200円以上」を掲げていると話されま

平和のための戦争展準備へ

野田・九条の会も参加している「平和のための戦争展」は来年5回目を迎えます。そこで文化会館で開催しようと実行委員会が発足しました。開

催日を2011年8月20日、21日の二日間とし、野田市文化会館の大ホールやロビーを使い、戦争の悲惨さを知り、どうしたら戦争をなくし平和を作ることができなのか、大勢の市民と考える場を作りたいと考えています。沖繩の知事選挙では保守候補が再選されましたが、

九条への想い

先日、川間駅で駅頭署名を行いました。大勢の人が私たちの呼びかけにチラ見、もしくは係わり合いになりたくない視線を合わせず、素通りして行きました。憲法問題のみならず、国保や消費税問題に無関心を装うのが大人のプライドなのでしょうか?そんな人に限って施行され当事者にな

ると国や政治が悪いと評論家を気取ってグチるんですよね。行動も起こさず。そんな中、駅近辺にい

す)ことに専念していた私たちですが、途中からあきらめました。署名は取れずとも歩く人の耳はふさがっていません。せ

化)のCMがずっと流れています。私たちも「聞きたくもない。もう何度も聞いたよ」と言われるような繰り返し返しの宣伝行動をしていかなければなりませんね。

新日本婦人の会野田支部 岡部弘美

それがいずれ、「またかよ」になることを期待して。

「またかよ」が「もうだね」に変わる日まで

た中高生に署名をお願いすると快く書いてくれました。学生は素直でよいです。学生バンザイ!

署名を取る(結果を残す)今テレビでは「地デジ

「九条への想い」への400字程度の原稿をお待ちしています。

実行委員を募集していただけます。次回実行委員会は2011年1月16日(日)13時半、中央公民館講座室です。

九条の眼

沖縄の尖閣諸島の領有権をめぐる日中間の対立に加えて、北朝鮮軍が韓国延坪島を砲撃するという許しがたい事件が勃発。わたしたちが平和な共存の地域にと願う東アジアに緊張がはしっている。

黄海では米原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀から参加しての大規模な米韓合同軍事演習が展開され圧倒的な軍事力が誇示された。

問題は、憲法9条に拠って世界に生きる立場から政治、外交による解決に心血を注いで使命を果たすべきであるのに、米韓の演習に続いて日米共同統合実動演習を九州を中心とする日本国内と周辺海空域でかつてない規模で実施している日本の態度だ。ジョージ・ワシントンも黄海から直接九州近海に展開して中国による尖閣諸島の侵攻を想定した「島嶼（とうしょ）防衛」などの訓練にあたっている。

30日には年末の防衛大綱見直しで、武器全面輸出禁止を緩和し、武器の国際共同開発・生産への参加容認を打ち出し、また中国の海洋進出を念頭に南西諸島方面の島嶼防衛力強化を求める案が政調役員会で了承され、首相の判断に委ねられた。すでに人口1200人の与那国島への陸上自衛隊200人程の配備計画をはじめ、南西の島々への自衛隊の配備が進められようとしている。国境の防衛体制強化は更なる緊張を招きかねず、最前線の軍事基地とされる小さなコミュニティーへの影響や島民の物心両面の負担は計り知れない。

この間の尖閣領土問題、北の砲撃という事態に直面して、軍事力を誇示し、他国に圧力をかけることで「国益、国民を守る」という力の論理が、政府、マスコミや軍需産業界に留まらず私たち国民の意識にも徐々に広がってきているような不安を覚えるのは思いすごしだろうか。憲法9条を守ろうとしているわたしたちも、どれだけの思いを以ってこの状況に向き合い行動できるのだろうか。なんとなく心細い思いに沈んでいる折に「ひとりの日本兵」がそっと背中を押してくれた。

「ひとりの日本兵」

ひとりの日本兵が
普察冀モンゴルの原野で息をひきとっていった。

彼の眼窩がんかには 赤黒い血が凝固し、
あふれるばかりの涙を凍らせ
悲しみを氷結させていた。
ふたりの農夫が、鋤を担いで、
やって来て、
彼を華北の岡の上に埋葬した。(略)
中国の雪は音もなく、彼の墳墓の上に降りていた。

このうら淋しい夜中、
遠い海をへだてた故郷の寒村で、
腰の曲がった老婆が、
まだらな白髪を垂らして、
いっしんにはるかな戦地の息子の無事を祈っているにちがいない……

「精選中国現代詩集」秋吉紀久夫編訳 作者、陳輝は日中戦争下の中国で抗日活動にあっていた詩人。「陳輝はこの詩を40年2月12日の夜に書いた。日本軍との戦争のさなか、詩人は、しかばねとなった日本兵の故郷の母を想った。その想像力は敵味方の別を超え、国境を超えていた。45年2月8日、陳輝は農家に潜伏中、日本軍の攻撃を受け、手投げ弾で自爆した。24年の生涯だった。」
(朝日新聞 ニッポン人・脈・記 語り継ぐ戦場3より抜粋)

12月の九条の会

9日(木) 梅郷駅西口

4~5時 チラシ配布

11日(土) 樺のホール4階研修室

2~3時 学習会

「尖閣諸島問題」

3~5時 定例会

島をめぐる歴史。「無主地先占」の権利。台湾、中国、日本の漁民のこと。資源開発のこと等々。勢いを増す防衛力強化の声、危機感を煽り立てるマスコミ、右翼の暴力的中国人排斥行動など状況はよくありません。

大勢で勉強し意見交換をしませんか。